

2017年度 交換留学 留学報告書

コミュニケーション学科 3年

留学先：韓国 梨花女子大学

留学期間：2017年2月～2018年1月

まず学習の成果について話します。留学をする前の私の目標はまずなによりも「韓国語を完璧にすること」でした。語学力に関して、やはり現地にいること自体がとてもいい学習環境であることは1番実感したことです。勉強はどこでもできるので日本である程度の基礎を作ることは大事ですし、これから留学を考えている方達の今の努力は絶対役に立ちます、無駄になることは絶対にありません。

しかし、多くの方が苦労するところである、よりネイティブに近い単語を知る・

自信を持って話すと言った点に関して、現地に行くことで私自身とても変わることができたと感じています。1年という期間はとても短かったですが、留学する前の語学力と今の語学力は全く違うと思います。留学をしてよかったと心から思えますし、自分の目標も十分達成できたと感じています。

また語学力が身についてくると次はネイティブの人たちとの授業がとても心配でした。

初めはもちろん何もわからずレポートの書き方や授業の進め方も日本と違うことが多々ありました。慣れるまではとても大変でしたが、基本的には毎日少しずつの努力が自分を強くしてくれたと思います。単語やその言葉の概念がわからない時、1つ1つ調べました。とても面倒といえば面倒なのですが、そのおかげでより理解が深まり発見も多く、吸収力が上がりましたし、文化の違いや勉強の容量なども学べました。苦労した分、達成感も倍となり戻ってきます。

留学で学んだこと思ったことについて話します。

私が一番思っていることはやはり“留学をして本当によかった”ということです。留学を終えてからたくさんの人に留学について聞かれましたが、まず私が言うことは“留学することができてよかった”ということです。また、異国で暮らす・人と繋がるということについても改めて考えさせられました。国籍や育った環境が違うということは、自分にとっては当たり前のことが相手にとっては当たり前でないこともあり、どうしても理解できないこともたくさんありました。その中でたくさんの人と出会い関係を築いていくことが時には嬉しく、時には難しく複雑で文化・食べ物などの影響もあり、ホームシックにかかりそうになったこともありました。ですが、とても不思議です。悩んだりホームシックになった理由が異国で暮らす・人と繋がることだったとすれば、その理由がまたそこから私を救ってくれました。友人が助けてくれたり、日本のことを好きという友人の言葉や日本の商品が売っていたことなど、些細な事でも嬉しい気持ちになり、救われました。

留学することができたのは私の中で本当に良い体験だったと心から思っています。

2017年度 交換留学 留学報告書

国際交流学科 3年

留学先：韓国 梨花女子大学

留学期間：2017年2月～2018年1月

私が梨花女子大学に初めて訪れたのは大学1年生の時に参加した3週間の語学研修プログラムでした。その時に学んだ韓国語で行われる授業の楽しさは今でも覚えています。「また必ず梨花女子大学に戻ってくる」という想いを胸に門を出てから2年後、私は高校時代から描いていた韓国留学という夢を叶えることができました。その夢は私に多くのことを問いかけ、多くの景色を見せてくれました。

私が留学中に会った話の中で忘れられない話があります。授業で童話について触れる回があったのですが、そこで誰もが知っている有名な『うさぎとかめ』の話が教科書に載っていました。この話は、足の速いウサギと足の遅いカメが競走をし、最終的には足の遅いカメが勝つという話ですが、「諦めずに努力し続ければ夢は叶う」「怠けていては、足をすくわれる」といったようなことを教訓として教わってきたと思います。私もそう思っていました。しかし、先生は「多くの人がそう考えるかもしれないけれど次に競走をしたら勝つのはどっちだと思う？」と私たちに尋ねました。初めて聞いた質問に思わず笑みがこぼれる私たちに先生は「きっとウサギは前回の失敗を一生忘れないと思うわ。一度くらい負けてもいいじゃない。ウサギはこれから勝ち続けるのだから。それに、時には休息も大事。」と語ってくれました。競争社会の中で生きる私たちにとって、1度の失敗で取り返しのつかない状況に追い込まれることは決して珍しいことではありません。しかし、考え方次第では『うさぎとかめ』のように道は沢山あるのです。留学では「心の持ちようによってどうにでもなる」ということを学ぶことが出来ました。

そして私が留学中、会った外国人のほとんどが私より日本愛に満ち溢れていました。日本人である私に嬉しそうに「日本は素敵な場所だった」と熱く語ってくれます。その時、私は見知らぬ日本人に自然と感謝の気持ちが湧いてきました。彼らが日本を訪れた時、親切にしてくれた日本人がいたからこそ彼らの中で「日本は素敵な国」という認識がされ、今こうして日本人である私と友達になってくれているのだと思うと、繋がっていないようで世界はちゃんと繋がっているんだなぁと実感しました。留学は、当たり前だと思っていたことを“特別”に変えてくれる魔法だと思います。生まれ育った日本の良さに目を向けることが出来たのも、偏見を持つことがどれほど視野を狭めていることなのか、韓国という国が私にとってどんな存在なのかなど、当たり前のことすぎて考えたことがなかったことが沢山あります。しかし留学を通して当たり前のことほど、気付きにくく大切なことだと思いました。留学で私の考えを変えてくれた友達、私に自信を与えてくれた梨花女子大学、私たちが安心して過ごせるように常にサポートして下さったフェリス女学院大学の職員の方々、そしていつも私を信じて待っていてくれる家族全員に心から感謝しています。